

茨木市立水尾小学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和6年10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

〇●国語●〇

（領域ごと）

- | | |
|-------------------|-------------|
| ① 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 良好な結果であった |
| ② | |
| ③ 情報の扱い方に関する事項 | 概ね良好な結果であった |
| ④ 我が国の言語文化に関する事項 | 大変良好な結果であった |
| ⑤ 話すこと・聞くこと | 概ね良好な結果であった |
| ⑥ 書くこと | 概ね良好な結果であった |
| ⑦ 読むこと | 概ね良好な結果であった |

（問題形式）

- | | |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ② 短答式 | 大変良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 概ね良好な結果であった |

（無解答率） 概ね良好な結果であった

（その他）

- ・最も正答率が高かった設問
「情報と情報との関係づけ、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し
使うことができるか問う」設問
- ・最も正答率の低かった設問
「事実と感想、意見を区別して書き、自分の考えが伝わるように書き方を工夫する
ことができるかを問う」設問
- ・最も無解答率が高かった設問
「人物像や物語の具体的な全体像を想像し、表現の効果を考えることができるか
を問う」設問

分析

- ・全国平均と比べ、全ての領域で概ね良好な結果である以上の結果であった。特に「我が国の言語文化に関する事項」については全国平均を大きく上回る結果であった。
- ・「言葉の特徴や使い方」に関しては良好な結果であったが、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の正答率は全国平均をやや下回る結果になった。
- ・問題形式別では「選択式」や「短答式」では全国平均を上回ったが、「記述式」については全国平均を下回る結果になった。
- ・無解答率は全国平均を下回っている。
- ・事実と意見を区別し、自分の考えを書くことに課題があり、学校全体として授業での言語活動の充実を進めていく必要がある。

〇●算数●〇

(領域ごと)

- | | |
|----------|-------------|
| ① 数と計算 | 良好な結果であった |
| ② 図形 | 概ね良好な結果であった |
| ③ 変化と関係 | 概ね良好な結果であった |
| ④ データの活用 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 良好な結果であった |
| ② 短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

・最も正答率が高かった問題
「数量の関係を、□を用いた式で表すことができるかどうかを問う」設問
・最も正答率が低かった問題
「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかを問う」設問
・最も無解答率が高かった設問
「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかを問う」設問

分析

- ・全ての領域・問題形式で平均正答率が全国平均を上回った。学校全体で問題解決型学習に取り組んできた成果と考えられる。
- ・領域別では「数と計算」の設問が全国平均を大きく上回る結果になった。
- ・問題形式別では、全ての形式で全国平均を上回ったが、「選択式」「短答式」に比べ、記述式の正答率がやや低い結果となった。
- ・問題別の正答率ではほとんどの設問で全国平均を上回ったが、「角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述する」設問のみ、全国平均を下回る結果となった。
- ・無解答率についてもほとんどの設問で全国平均を下回ったが、「速さを求める」設問や「示された情報を基に、必要な数値を読み取り、基準値を超えるかどうかを判断する」設問については、全国平均を上回る結果となった。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

- ・国語は H28 年度から正答率が全国平均を下回っていたが、R3 年度以降、全国平均を上回っている。今年度については昨年度よりも正答率が上がり、日々の取り組みの成果が出ている。
- ・算数については H31 年度以降、全国平均を上回り、今年度については昨年度よりも正答率が上回る結果となった。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・学力高位層の割合は今年度も全国平均を上回る結果となった。しかし、R3 年度以降、正答率 40% 以下の層の割合が上昇傾向にあり、20% 以下のエンパワー層については、全国平均よりも割合が多くなっている。学校全体として、今後も引き続き学力保障の観点を意識し、取り組む必要がある。

○●取り組み●○

学力向上に関する取り組み

南中ブロックスタンダードを基本とした授業のユニバーサルデザイン化の実践

- ・教室の環境整備を行い、授業の準備を整え、落ち着いて学習に取り組める環境をつくる。
- ・チャイム着席や授業のはじめとおわりのあいさつなどの授業規律を大切にすること。
- ・全ての子どもが分かる、学び合いのある授業づくりのために「課題」・「めあて」・「学習の見通し」・「自力解決」・「学びの振り返り」など、学習時間の構造化を推進する。
- ・学習の協働化・共有化を図るために、ペアやグループ活動など、友だちと話し合う時間をもち、互いの意見を交流するなかで考えが深まるようにしていく。
- ・視覚教材や具体物を活用し、体験的に学べる授業づくりを行う。

1～6 年までの系統立てた学習活動の推進

- ・教職員間での取り組みの共通理解を図り、校内研修での授業力の向上をめざしていく。

児童が安心して学習できる居場所づくり

- ・学力向上に向けて、普段の人間関係づくりや集団づくりを大切にいく（みずおの「み」の「みんな仲良く」）。
- ・一人ひとりを大切にする人権教育を推進していく。

基礎学力の充実

- ・習熟度別学習や少人数分割指導を行うと共に、スクールサポーター等との連携や、授業中の人的支援の有効な活用を進め、個別に支援できる体制づくりを継続して行っていく。
- ・基礎基本の定着を意識した反復練習を重ねるなど、習熟することに時間がかかる児童への細やかな対応や取り組みを行う。
- ・「学び力アップ週間」などを活用し、家庭学習の確認を続け定着を図るとともに家庭との連携も強めていく。
- ・毎学期の「学び方をふりかえろう（自己評価）」で、自分の学習への向き合い方を見つめなおしていくことで、学ぶ意欲を高めさせ、個人懇談で成果や課題を共有し、家庭と連携し学習に向きあえる体制をつくっていく。

問題解決型の学習

- ・主体的に課題に取り組み、思考力・判断力・表現力が育めるような授業づくりを行っていく。
- ・考えをつなぎ、深めるために、ペアやグループでの交流、全体での練り上げを大切にいく。

ノート指導

- ・学んだ成果が見られる丁寧なノートづくりにつながる指導を行う。
- ・授業の最後の振り返りを自分のことばでまとめることで、学習の自己評価を行うとともに、自分の考えを言語化し、「書くこと」の力の育成にもつなげていくようにする。

読書活動の充実

- ・「読書が好き」「楽しい」と実感することで「読むこと」への意欲を高めていきたい。そのために「朝の読書タイム」や「読み聞かせ」、「読書週間」などの取り組みを継続していく。